

特性について

- (1) 同じ作業半径でも、ブームの段数により性能が異なります。また、作業半径がわずかに変わるだけでも吊り上げられる荷重は大きく変化します
- (2) クレーン吊り上げ能力は作業半径が大きくなるに従って、小さくなります。
- (3) アウトリガの張出状態により、吊り上げ能力が変化します。
- (4) ブーム方向（前方、側方、後方）により安定度が異なります。

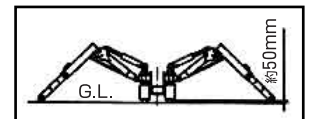
ブーム側方が最も安定度が悪いので、前方から側方へ旋回する場合は、定格総荷重表を守って作業して下さい。

⚠ クレーン使用上の注意事項

(1) 作業前

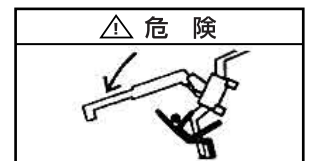
- ① 取扱説明書をよく読み理解してから作業を行って下さい。
- ② 作業開始前点検を励行して下さい。
- ③ クレーン作業を行うときは、必ずアウトリガを使い、機体を水平状態にして下さい。
- ④ アウトリガは原則として最大張出状態に設置して下さい。
- ⑤ ゴムクローラが地上より50mm前後浮き上がるようにして下さい。
- ⑥ アウトリガ等のピン穴には指を入れないで下さい。
- ⑦ 設置する際はポジションピンと抜け止め用ピンを差し込んで下さい。
- ⑧ 巻過警報装置のスイッチを入れて、ブザーの鳴ることを確認して下さい。
- ⑨ このクレーンで作業する場合、下記の技能講習修了者でないとは作業できませんのでご注意願います。

移動式クレーン運転のための技能講習…クレーンの運転をする場合
玉掛のための技能講習…玉掛の作業をする場合



(2) 作業時

- ① アウトリガの設置状況、地面の状態により、安全吊り上げ荷重は変わりますので、アウトリガの受け皿が浮き上がるようなクレーン作業は危険ですから、行わないでください。定格総荷重表を守って作業して下さい。
- ② 過負荷作業は転倒、破損の危険がありますので行わないで下さい。
- ③ エンジンの回転を上げたままでクレーン作業をすると、速度が速すぎて危険です。
- ④ クレーン作業を行う場合、荷が振れないよう注意して下さい。
- ⑤ 荷の横引き、縦引き、斜め吊りはクレーン破損の危険がありますので、行わないで下さい。
- ⑥ 荷物を吊った状態で、クレーンから離れないで下さい。
- ⑦ クレーン運転中は、ブームの下に人が入らないようにして下さい。
- ⑧ フック巻き上げ時、及びブーム伸時は巻き過ぎに注意して下さい。
フックの巻き過ぎの状態に近づくと巻過警報装置が作動し、ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴らないようにフックを十分下げて使用して下さい。



(3) 走行時

- ① 走行時は必ずアウトリガを格納状態にし、フックはフック掛けに固定して下さい。
- ② 旋回及び悪路走行時はスピードを落として下さい。
- ③ 坂道で駐停車する場合は、必ず輪止めを使用して下さい。
- ④ 傾斜面での走行やトラック積み込み時は、走行運転側が必ず山側になるような車両の向きで運転して下さい。



(4) 作業後

作業終了後は、必ずメインスイッチ（キースイッチ）をOFFにして下さい。

(5) 点検・整備

- ① 作業開始前点検及び月例、年次の定期自主検査を実施して下さい。
- ② 点検、検査で異常が認められた場合は直ちに修理を行って下さい。
- ③ 取扱説明書等に定められた基準に基づいて消耗品の交換、油脂類の給脂、補充、交換等の整備を実施して下さい。

⚠ その他の注意事項

- (1) クレーンを誤って使用した場合、死亡または重傷に至る重大事故の恐れがあります。
- (2) クレーン作業前には取扱説明書を読み、安全な操作方法を習得して下さい。